

国と千葉県が新たな高速道路網の検討を進める

三番瀬横切る第2湾岸道路の復活も視野に

千葉国道事務所と千葉県、千葉市などが、「湾岸地域の渋滞対策」を理由に、高速道路を含む新たな道路ネットワークをつくる検討を進めています。不要不急の大型公共事業になりかねません。

「第8回千葉県湾岸地域渋滞ボトルネック検討WG」(3月13日)では、「渋滞箇所が湾岸軸を担う国道14号、

16号および357号に集中している「速度低下が顕著で、県平均の3倍以上の渋滞損失時間が

石油や自動車産業の支援が目的か

また、千葉港が石油石炭取扱量が多いことをあげて「渋滞が首都圏へのエネルギー供

連続的に発生している」として、新たな高規格道路の建設を進めるとしています。

しかし、この地域は人口も産業も密集しており、東京湾の存在が自由なルート設定を妨げているため、県全体のなかで相対的に渋滞が発生しやすいのは当然のことです。

しかも「渋滞解消」をめざしているのに、渋滞を減らす目標は設定していません。

給の効率性を阻害している」と述べ、自動車輸送についても「効率性を阻害している」としています。しかし、関連する企業は現状でも利益を上げており、渋滞は産業に対する圧力にはなっていない。

さらに国道事務所では「湾岸地域の開発計画」も道路建設の理由に理由にあげていますが、「千葉港長期構想」などは30年後を目標にしたものであり、計画通り進む保証

はどこにもありません。今後、人口減少が進み車の保有率も変化しますが、これが渋滞にどう影響するのか、推計さえしていません。

千葉県弁護士会が憲法講演会開催

千葉県弁護士会が4月21日、「憲法『改正』問題を考える」自衛隊条項を憲法



千葉県弁護士会が開催した憲法講演会
4月21日・県弁護士会館

「舞浜交差点の立体化」「若松交差点の右折レーン延伸」「千葉市内で4車線を6車線化」

千葉市の資料では「第2湾岸道路」のルート図も示されており、この計画によって三番瀬を横切る高速道路の建設が実際に進み始めることも懸念されます。一方、陸側でも高速道路を造ろうと思えば多くの住戸が立ち退きを迫られ、環境破壊も進みます。

渋滞解消は道路新設ではなく改良で

この間、渋滞解消策として「舞浜交差点の立体化」「若松交差点の右折レーン延伸」「千葉市内で4車線を6車線化」などの改良が進められてきており、渋滞が緩和されています。

渋滞解消目標もつくらず、エネルギー産業や自動車産業の利益のために莫大な税金を投入して不要不急の高速道路を造ることは、県民の合意を得られません。渋滞解消は、効果を上げている道路や交差点改良を中心に進めるべきです。

に加えることの意味」との講演会を開きました。講師は、早稲田大学の水島朝穂教授です。

講演の中で水島教授は、「憲法改正に限界はあるか」と問いかけ、「日本国憲法の『人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理にもとづくものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する』という部分が、改正限界を定めている一つだ」と指摘。「もう一つは97条。基本的な権利について、『これ

また自衛隊が長距離巡航ミサイルや攻撃型F35戦闘機、護衛艦「いずも」を戦闘機積載空母に改造するなど、他国攻撃能力を備えた攻撃型の軍隊に変えようとしていることについて、もはや「自衛」ではないと批判しました。

日本共産党が街頭演説

4月28日、船橋駅南口で日本共産党が街頭演説を行いました。椎葉寿幸党副委員長(参院比例)、斉藤和子前衆院議員、丸山慎一県議、岩井友子・佐藤重雄・金沢和子・松崎佐智各市議が訴えました。

国民に嘘をつく安倍政権の退陣を求める一方で、韓国と北朝鮮の南北首脳会談を歓迎し、「対話こそ平和の土台だ」と指摘。

森田知事が「殴られたら殴り返す気概がなければ平和は保てない」と著書に書き軍事優先の姿勢を示していることを批判。税金の使い方について「予算を組み替えれば、子ども医療費助成対象引き上げ、特養ホーム増設、少人数学級拡大を進められる。ご一緒に実現を」と訴えました。